

# 研究交流報告書

平成30年11月12日

上越教育大学長 殿

所属・職名 人文・社会教育学系 教授  
氏 名 志村 喬

	期 間	旅行区間及び滞在地	研究機関
研究交流日程	30年10月28日～30年11月5日	イギリスー日本（上越市・奈良市）ーイギリス	上越教育大学
研究交流テーマ	教員養成制度改革の教科教育への影響に関する日英比較研究		
研究交流の概要 及び 研究交流の成果	<p>研究交流の概要</p> <p>イギリスのノッティンガム大学教育学部で教科教員養成（地理）を担当するメリー・ビダフ（Mary Biddulph）博士を、留学生・国際交流経費等で招聘し、教員養成制度改革に関する日英相互の研究情報交換、並びにその日本側背景である日本の学校教育実態及び教員養成実態についての共有・意見交換、さらに相互理解を踏まえた今後の国際共同研究計画検討を遂行した。具体的には、次が主要内容である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の社会科免許科目「社会科・地理歴史科指導法」の授業観察及び学生との交流</li> <li>・新潟県立高田高等学校・本学附属中学校・上越市立上雲寺小学校の訪問と授業観察</li> <li>・イギリスの教員養成改革に関する公開講演会の開催（10月31日、演題「イングランドにおける教師教育改革とその地理学修への影響」、参加者約30人）</li> <li>・日本社会科教育学会年度大会（奈良教育大学）への共同参加・基調講演（11月4日）</li> </ul> <p>研究交流の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校主導型の教員養成改革が進められたイングランドにおいて、どのような成果と課題があるか講演等を通じて知ることができ、本学の教員養成のあり方を考えるうえで大いに参考になった。</li> <li>・本学の授業や地域の学校訪問を通じて、日本の教育実態を理解してもらうことができ、これまで続けてきた研究交流内容の一層の充実を促す相互理解が促された。さらに、それをふまえた、今後の研究交流の方向性を共有することができた。</li> </ul>		
研究交流の成果の還元に関する具体的な方策（今後の計画）	<p>滞在中に開催した公開講演会（10月31日、演題「イングランドにおける教師教育改革とその地理学修への影響」）には、30人以上の本学教員・学生等が参加し、質疑の内容をみても参加者にとって学術的・教育的意義が大きかったと判断される。</p> <p>今後は、講演内容の論文化・刊行等を通してより広い学内外へ成果還元を図る予定である。</p>		
研究交流中の感想又は希望等	<p>留学生・国際交流経費により助かったが、減額により受け入れ教員の私費負担がかなり生じたこと、滞在中の研究室確保も受け入れ教員個人による確保であったこと、を記しておきたい。</p>		

（注）記入スペースが狭い場合は、縦に広げて作成してください。